

しおんだより VOL.17



コロナ、コロナで明け暮れた2021年度

一月は行く、二月は逃げる、三月は去る。昔の人は、本当に上手く言ったもので、あっという間に、年越しから3ヶ月が経とうとしています。

人間の記憶とはいいかげんなもので、わずか3ヶ月前の紅白歌合戦が、どんな内容だったかも、思い出せないような気がします。

当院の待合室の風景。今年は、コロナの影響もあり、外来の様子も一変しました。右側の壁に掛けている絵画は、患者さんにご寄贈いただいたものです。

昨年4月に、コロナの感染拡大に対応するという大阪府の要請に応じて、当院でもコロナ患者さんの入院治療の受け入れを開始しました。国公立の大きな病院や、私立でも規模がそこそこ大きく、急性期治療を重点的に行うことにされている病院と異なり、当院でのコロナ患者さんへの入院治療は、人材、設備、経営的な観点から、少なからず制約も多かったのですが、「地域の方々に安心・安全と思っていただくこと」という当院の使命を果たすべく、職員一丸となって取り組んで参りました。

その結果、第五波においては、大阪府下でも有数の病床稼働率をキープしながら、コロナ患者さんへの対応を行うことができました。また、当初は、治療薬の本格的な臨床応用が始まる前で、治療に難渋する例も少なくありませんでしたが、抗ウイルス薬は、抗体カクテル療法の導入もあり、早期に治療を開始し、歩いてご退院になる例も見られ、地域医療における一定の役割を果たすことができたのではないかと考えています。

電子カルテシステムが本格稼働しました

前回のしおんだよりでもお伝えしましたが、3月1日より電子カルテシステムの本格稼働が始まりました。

紙で書くことの素早さは基本的にありますし、長年、紙と伝票で行ってきた業務のほとんど電子化いたしますので、現場のオペレーションはかなり変わります。

職員の研修や準備も進めてきましたが、導入当初は外来での待ち時間が長期化する例もあり、大変ご迷惑をおかけしました。

ただ、徐々に現場も慣れて参りましたので、無闇にお待たせする時間はなくなっていくものと思います。その一方で、やはり情報の共有や指示の正確な伝達、さらには検査や点滴の確実な施行といった部分についてのメリットは出てきています。より安全・安心の医療の提供に向けて頑張っ参りますので、どうぞご期待下さい。



新年度に向けての準備も進めています



桜も咲き始める頃となりました。まだまだお花見は難しい状況ですが、静かに楽しみたいです。

あっという間に、2021年度も終わりを迎えます。卒業式や卒園式などの行事の写真なども、SNSで目にすることも多かったです。4月からは新しい年度の始まりということで、当院の診療体制、看護体制についてもよりパワーアップすべく、人員の充実を図って参ります。

また、当院は医療、薬剤、看護、介護といった各専門家が連携してチーム医療を行っていくことで、これからの地域医療の中で求められる医療機関としての役割を果たしていきたいと考えております。

4月からも、今まで以上にパワーアップして、地域の皆様に愛される病院運営を目指したいと考えております。新しい年度も、引きつづきよろしく申し上げます。（文責：狭間研至）

しおんだより 第17号 発行日：令和4年3月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp